

第3学年 社会科学習指導案

は組 男子17名 女子16名 計33名
指導者 森山 慎一

1 小単元 鹿児島市大発見

2 小単元について

(1) 小単元の位置とねらい

子どもたちは、これまでに学校周辺の探検を通して、学校周辺の地形や土地の使われ方、交通の様子は場所によって違いがあることをとらえてきている。このような学習を通して、子どもたちは追究の範囲を鹿児島市全体に広げ、土地の使われ方や地形、交通の様子を調べてみたいという意欲が高まってきている。

そこで、本小単元では、鹿児島市の特色ある地形、土地の使われ方、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子や古くから残る建造物などを調べる活動を通して、鹿児島市全体も場所によって様子が違うということ具体的にとらえさせようとするものである。また、見学や地図等の資料を活用することを通して、場所ごとの相違点や類似点を整理し、それらの理由を地理的な条件や社会的な条件との関係から話し合い、分かったことや考えたことを地図や文章に表現できるようにするものである。さらに、**学んだことを基に鹿児島市内の他の地域の様子についても追究してみようとする態度を身につけさせるものである。**

このような学習は、鹿児島市の生産や販売に関する仕事について調べ、その工夫や努力について調べたり考えたりする学習に発展していくものである。

(2) 指導の基本的な立場

鹿児島市は、人口約60万人が生活する県庁所在地である。附属小学校を中心に考えると、北側の平地は住宅や店舗、オフィスビルが多い。中でも市役所を中心とした山下町周辺は、店舗やオフィスビルが密集している地域や県民交流センターなどの公共施設が集まる地域がある。また、北側の吉野の台地や、松元などの西側の台地や丘陵地には、宅地造成が進み、多くの店舗が出店している地域や、田畑や茶畑が広がっている地域が見られる。一方、東側の海岸線沿いには、県庁、科学館といった公共施設や、高層集合住宅地が多い。さらに、南側の台地や丘陵地には住宅地が多く見られ、平地には谷山二号用地を始め、多くの工場や港が広がる。産業道路沿は多くの大規模小売店や飲食店が建ち並ぶなど、近年目覚ましく発展している。このように、鹿児島市の様子は、地理的な条件や社会的な条件と大きく関係し、それぞれの場所によって違いが見られる。

そこで、ここでは、鹿児島市の様子は場所によって違いがあるということをとらえさせるために、前単元「学校の周りの様子」での学習において培った見方や考え方を生かしながら土地の様子の違いについて、考えられるようにする。その際、土地利用や地形に特徴のある地域を重点的に取り上げ、見学等を基にして具体的に考えられるようにする。

そのためにまず、自分の住んでいる地域の様子を紹介し合ったり、鹿児島市の地図や写真を元にして気付いたことを話し合ったりすることで、「鹿児島市全体の様子は、どのようになっているのだろうか。」という問題意識をもたせる。その際、**学校周辺の様子について調べたことやまとめたことを振り返らせることで、そこでの学びを生かして追究していけそうだという見通しをもたせ、意欲を高めさせていくようにしていく。**次に、一人一人の予想を基に「地形の様子」「土地利用の様子」「交通の様子」「主な公共施設や古くから残る建造物」の観点から追究計画を立て、実際に見学したり、写真資料や地図を活用したりすることを通して、自分なりに追究したことを個人やグループで白地図等にまとめさせる。そして、それを基に地形や土地利用、交通の様子を相互に関連付けて話し合わせていくことで、鹿児島市の様子には、場所によって違いがあり、その違いは、地理的な条件や社会的な条件が関係していることをとらえさせる。さらに、学習したことを基に、鹿児島市の様子を紹介するパンフレット作りに取り組みさせることで、鹿児島市の様子についての見方や

考え方をより深めさせていくようにする。

このような学習を通して、鹿児島市の様子について実際に調べる楽しさを味わいながら、地域の様子は場所によって違いがあることや、その理由について考える力を高め、地域社会に対する誇りや愛情をもつことにつながっていく。

(3) 子どもの実態（調査人数33人、質問紙法、重複回答、主な項のみ記述）

この学級の子どもたちの、鹿児島市の様子についての見方や考え方は次の通りである。

1	鹿児島市についての興味関心
	鹿児島市の様子(4) 鹿児島市の土地利用の様子(26) 鹿児島市の交通の様子(1) その他(4)
2	鹿児島市の様子
	施設について(10) 地域について(2) 方角と施設について(11) 地域と施設について(10)
3	鹿児島市の交通の様子
	バス(24), 市電(24), JR(20), 船(7) 新幹線(7), 飛行機(5)
4	本小単元に関する資料活用能力
(1)	1枚の写真資料の読み取り(高所から見下ろした街の様子)全体(29), 部分(4)
(2)	2枚の写真の比較(撮影点の異なる市街地と桜島の写真)相違点(16), 類似点(23)
(3)	地図の見方
	○ 地図記号 学校(31), 交番(10), 田(12) 神社(32) 郵便局(32), 畑(11), 消防署(28), 工場(6)
	○ 地図による目的地の見つけ方 できる(29), できない(4)
	○ 地図による道順記入 できる(27), できない(6)
	○ 地図による目的地説明 できる(10), できない(23)
5	本小単元における学習について
(1)	追究方法 見学(18), 地図(6), インタビュー(4) 写真(2)
(2)	まとめについて 地図(6), 新聞(13), 本(5), 文章(10)

鹿児島市全体の土地利用の様子に着目している子どもが多く、交通の様子や土地利用の様子について着目している子どもが少ない。これは、学校の周りの様子の学習において、土地利用の様子に違いがあることをとらえている子どもが多い一方で、「地形」「交通」といった観点が十分に身につけていないからであると考えられる。鹿児島市の様子については、自分が住んでいる地域や学校周辺の様子については多くの子どもたちが答えているが、それ以外の地域の様子については答えることができていない子どもが多い。子どもたちは、生活経験の中で、様々な場所や施設を訪れてはいるものの、それらを整理し、市全体の様子としてとらえるという経験が十分にできていないことが理由として考えられる。鹿児島市の交通の様子については、日常の生活経験から、バスや市電、JRを答えている子どもたちが多く。しかし、飛行機や新幹線を答えている子どもたちも存在しており、鹿児島市と鹿児島県の地理を混同していることが考えられる。資料の読み取りについては、写真資料を比較する際、ビル等見えているものに着

目し類似点をとらえる子どもが多い一方で、見え方の違いに着目し相違点をとらえる子どもは少ない。追究の方法については、見学やインタビューを挙げている子どもが多い。これは、第2学年での生活科の学習による探検やインタビューの経験が生きていると考えられる。

(4) 指導上の留意点

以上のことを踏まえて、指導に当たっては、次のことを留意したい。

鹿児島市の様子について具体的に理解させるために、「地形の様子」「土地利用の様子」「交通の様子」「主な公共施設や古くから残る建造物」という4つの柱で追究をさせていく。その際、鹿児島市の様子は場所によって違いがあることを理解させるために、土地利用や地形の様子に特徴のある代表的な地域を取り上げ、それぞれの地域の全体像をとらえさせるようにしたい。そして、調べた事実を整理する段階では、事実と事実を関連付けながら、その理由について根拠をもって述べられるようにしていきたい。

ア まず、子どもたちの住んでいる場所についてマッピングを行った後、家の周辺の様子を紹介し合うことで、鹿児島市の様々な地域に対して興味や関心をもてるようにする。また、子どもたちが居住していない場所についても写真で紹介し、広い鹿児島市の様子について、詳しく知りたいという意欲を高められるようにする。その際、学校の周りの様子の学習を生かして、「地形の様子」「土地利用の様子」「交通の様子」「主な公共施設や古くから残る建造物」の観点でとらえられるようにし、自分なりの予想が立てられるようにしていきたい。

イ 自分たちの住んでいる鹿児島市は、場所によって様子が違うことを具体的にとらえさせるために、見学の際は設定した四つの観点から調べさせるようにする。そのために、市内の見学は

特色のある地域を中心に行い、見学したことを地図やカードにまとめ、地域ごとに整理させる。そして、土地利用の様子の違いには、地理的な条件や社会的な条件が関係していることをとらえさせるために、山下町周辺と紫原団地を取り上げ、土地利用の様子の違いについて話し合わせ明らかになったことを、他の地域に当てはめて考えさせていきたい。

ウ 鹿児島市の様子について分かったことや考えたことを生かしながら、鹿児島市の特色について市のパンフレットにまとめ、互いに紹介し合う活動を設定し、市の様子に対する見方や考え方を深めるとともに、自分たちの住む鹿児島市の様子が分かる喜びや楽しさを味わわせたい。

3 目標

- (1) 自分たちの住んでいる鹿児島市の様子について、今までの学習を生かしながら主体的に取り組むことができる。
- (2) 鹿児島市の様子について、場所ごとに土地利用の様子や地形、交通の様子について比較したり関連付けたりして、考えたことを説明することができる。
- (3) 鹿児島市の様子についての的確に観察したり、資料を活用したりして必要な情報を集め、調べて分かったことを白地図に書き込んだり、絵や文で表したりすることができる。
- (4) 自分たちの住む鹿児島市の様子は、地形や土地利用の様子、交通の様子、主な公共施設や古くから残る建造物の場所によって、地域ごとに違いがあることをとらえることができる。

4 指導計画(全12時間)

学習過程	主な学習活動	学び合う喜びや楽しさの深まり	教師の働きかけ
つかむ・立てる	1 自分の住んでいる地域の特徴について話し合う。 2 鹿児島市の特色ある地域の写真から、気付いたことや疑問に思ったことを基に学習問題を設定する。	みんなの住んでいる地域はどんなところかな。 場所によって様子が違うな。知らない場所があるな。	市地図 ○ 鹿児島市の様子が地域によって違うことを気付かせるために、子どもたちの紹介カードを基に問題意識をもたせる。
	私たちの住む鹿児島市の様子はどのようになっているのだろう。	どんな場所があるか、くわしく調べてみたいな。	写真(特色ある地域) ○ 鹿児島市の様子について問題意識をもたせるために、市の特色ある地域の写真を読み取らせ、どのような特色があるのか話し合わせる。
調べる	3 学習問題について予想をし、調べる内容や方法について話し合う。 [調べる内容] ○ 地形の様子 ○ 土地利用の様子 ○ 交通の様子 ○ 主な公共施設や古くから残る建造物の位置 [調べる方法] ○ 見学 ○ のびゆく鹿児島、市内地図	どんな地形かな。どんな建物があるだろう。電車はどこまでつづいている。 行って調べてみたいな。地図や写真で確認しよう。	○ 学習問題に対する自分の考えを明確にさせるために、学習経験や生活経験を基に予想させ、そのように考えた根拠を記述させる。
	4 市内見学の計画を立てる。 5 市内見学をし、地形や土地利用の様子などについて分かったことを白地図やカードにまとめる。	ビルや住宅が多い地域があるぞ。海の近くは、工場ばかりだな。山が多い地域は、畑がたくさんあるぞ。	市地図(市内地図) ○ 見学の見通しをもたせるために、地図に見学経路や見学のポイントを記入させる。
まとめる・広げる	6 まとめた資料を基に、鹿児島市の様子について話し合う。 (1) 地形や土地利用について話し合う。(本時)	公共施設がたくさんあるよ。古くからある建物が多い地域だね。バスや電車が、たくさん通っているね。	○ 市内各地の様子の違いをとらえやすくするために、地形の様子や土地利用の様子、学校からの位置などの観点から、見学させるようにする。
	<p>土地利用の様子は地形や暮らしやすさによって違う。 他の場所でも、試してみよう。</p>	見学してきたことを地図にまとめよう。カードにまとめるとわかりやすいぞ。	写真(山下、紫原) ○ 土地利用の様子が地形に関係することをとらえさせるために、特徴のある2か所の写真を比較させ、気づきを話し合わせる。
	(2) 交通の様子について話し合う。 7 公共施設や古くから残る施設について調べ白地図にまとめる。 8 学習を振り返り、市紹介のパンフレットにまとめる。	土地の使われ方は地形によって、違うのだな。 土地の使われ方は、暮らしやすさにも関係するのだな。 交通の様子によっても、土地の使われ方は変わってくるのだな。 鹿児島市の土地の使われ方の様子は、地形や、交通の様子などに関係していて、場所によって違いがあるのだな。 鹿児島市の様子について、わかりやすい紹介パンフレットにまとめよう	年表(鹿児島市の住宅地造成) ○ 土地利用の様子は、社会的な条件とも考えあることをとらえさせるために、年表から団地が造成された理由を考えさせ話し合わせる。
	私たちの住む鹿児島市は、土地利用の様子や交通の様子がいろいろあり、場所によって様子が違っている。	鹿児島市って、いい町だな。鹿児島市について、もっと調べてみたいな。	バス路線図 ○ 交通の様子の違いについてとらえさせるために、バスの路線図を読み取らせる。 写真(昔の山下町) ○ 古くから残る建造物について理解させるために、山下町の昔の写真を読み取らせる。 ○ 調べたことや考えたことをまとめさせるために、市の紹介パンフレットを作成させる。

5 本 時 (10 / 12)

(1) 目 標

山下町と紫原の土地の様子について、土地利用の様子を比較しながら進んで話し合うことを通して、土地利用の様子は地形や他の場所との距離に関係していることをとらえるとともに、同じ鹿児島市内でも場所によって土地の様子には違いがあることをとらえることができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時の展開に当たっては、思考の高まりを目的とした学び合いが重要だと考える。そこで、山下町と紫原の土地利用の様子の違いについてとらえさせるために、まず、それぞれの地形に着目させ、公共施設が多い山下町の特色を明らかにする。そして、紫原と他の場所との位置関係に着目させ、「紫原に住むとどんなところに行きやすくなるか。」と問うことで、市内のいろいろなところに行きやすい場所に住みたいという人々の思いに関する気付きを引き出しながら、紫原の特色を明らかにしていく。

(3) 実 際

学習過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
<p>① 追体究化問題の</p> <p>② 追究計画</p> <p>③ 追究問題の究明</p> <p>④ まとめ</p>	<p>1 本時における追究問題を確認し、具体化する。</p> <p>山下町周辺と紫原団地では、なぜ土地の様子がちがうのだろうか。</p> <p>2 学習の進め方について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループでの話し合い→全体での話し合い ○ グループで作成した資料、写真資料 <p>3 山下町周辺と紫原団地の土地の様子とその違いについて話し合う。</p> <p>(1) 土地利用の様子を整理する。</p> <p>(2) それぞれの地域の特色とその理由を話し合う。</p> <p>4 鹿児島市内の他の地域の土地の様子とその理由を話し合う。</p> <p>5 本時の学習をまとめる。</p> <p>山下町と紫原の様子が違うのは、土地の形や暮らしやすさが関係しているから。</p> <p>6 次時の学習について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の様子の違いによる、交通の様子の違い。 	<p>7</p> <p>30</p> <p>8</p>	<p>⑤ 写真(山下町の公共施設, 紫原の住宅地)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「なぜ、市内の様子も場所によって違いがあるのだろうか。」という問いをもたせるために特徴のある2か所の写真の建物の種類に着目させ、気付きを話し合わせる。 ○ 見通しをもった追究ができるようにするために、学習の進め方や扱う資料を明確にさせる。 <p>⑥ 地図(グループで作成したもの), 写真資料(山下, 紫原)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 山下町の土地利用の特徴をあきらかにするために、紫原の土地利用の様子と比較させる。その際、グループでまとめた地図を根拠として、建物の種類や数といった観点で比較させ、気付きを話し合わせる。(①) ○ 山下町の土地利用の様子と地形を関連付け、山下町が人々が集まりやすい地域であることをとらえさせるために、山下町の地形と紫原の地形を比較させ、土地の高さの違いに気付かせる。(②) <p>⑦ 年表(鹿児島市の住宅地造成), 写真(昔の山下町周辺)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 紫原が一番最初に造成された住宅地であることと、他の場所との位置関係を関連付け、「少しでも市内のいろいろなところに行きやすい場所に住みたい。」という人々の思いをとらえさせるために、紫原を中心とした地図を読み取らせ、「紫原に住むとどんなところに行きやすくなるのか。」と問う。(③) ○ 土地利用の様子と交通の発達との関係をとらえさせるために、陸橋や新しいバス路線が開通したことの理由を話し合わせる。 ○ とらえたことの、一般化を図るために、他の地域の特色を地理的な条件や社会的な条件と関連付けて理由を話し合わせる。